

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：高木啓吾 所属：香川県立香川西部養護学校

記録日：2021年 2月12日

キーワード： 思考の整理、自発性

【対象児の情報】

○学年 高等部3年生 男子

○障害名 水頭症、二分脊椎、知的障害

○障害と困難の内容

- ・肢体不自由があり、指を使った細かい操作は苦手である。
- ・生活全般で支援を要する場面が多く、受動的な状況が多い。
- ・思いや願いを考えることはあるが、実現に向けて主体的に動くことが少ない。

【活動目的】

・当初のねらい

思考の整理をしながら、自己実現をしたり役割を果たしたりするための実行力を身に付けることができる。

・実施期間

R2. 6～R3. 2

・実施者

高木啓吾

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

〈身体面〉

- ・下半身と右手に麻痺があり、指先が動くのは左手のみである。
- ・移動は電動車いすを使用しており、エレベーターの乗り降りも含め、校内の移動は基本的に一人で行える。

〈学習面〉

- ・知的障害があり、療育手帳の判定はAである。(4段階のうち2番目に重い段階)
- ・ひらがなやカタカナの読み書きはできるが、書字速度は遅く、字のバランスも悪い。また、濁点や促音が抜ける事もしばしばみられる。
- ・書く際には、電動車椅子のハンドルを外し、車椅子を机に寄せたり、机の上に滑り止めを用意したりすることが必要である。
- ・口頭での簡単な指示は理解できる。
- ・タブレット端末やスマートフォンは使用経験があり、ゆっくりではあるが、フリック入力も概ねできる。

〈行動面〉

- ・具体的な希望を生徒自身で伝えることもできるが、教員とのやり取りの中で助言や支援が必要なことが多い。
- ・自発的に活動を始めたり、道具を準備しようとしたりする動きは少ない。

- ・希望や願いによっては周囲が多大な準備が求められるものもあり、「実現のために自分自身は何ができるか。」といった問いに黙ってしまう姿も見られる。また、実現可能性に関して、思い至らない点が多いようである。

〈コミュニケーション面〉

- ・指示に対しては素直に聞き入れることが多い。
- ・発音がやや不明瞭だが、言葉で会話をすることができる。また、親しい人とはよく話し、経験したことや感じたことを自ら話すこともよくある。
- ・他の人と関わる意欲はあるが、どのように関わったり、話をしたりすれば良いかわからないこともあると思われる。慣れない場所や相手だとその傾向が強まるようである。

〈卒業後の生活〉

- ・医療的ケアの対応が可能な複数の施設を利用し通所する予定である。

○活動の具体的内容及び対象生徒の事後の変化

実践1 「思考整理能力」及び「活動遂行能力」についての実態を探る

〈ねらい〉

- ・本人が現状、願いや希望に関わることをどれくらい具体的に想定し、考えることができているかまた、考えているとしたらどのように考えているのかを指導、観察を通して把握する。

〈方法〉

- ・本人がやりたいこと、お願いしたいことについて「希望シート」を作成する機会を設ける。
- ・「希望シート」にはやりたいことや教師や友達にしてほしいことについて、目的や期限、必要なものなどを記入できるようにする。

※全く書き始めることができないような場合は、評価としては「自分で検討することは難しい。」となるが、状況に合わせて会話などを基にして書くよう促したり、選択肢を与えたりするなど、書くきっかけを見つけられるように支援を行う。

- ・学校生活において教師が本人に明確な役割を与えたり指示を出したりする。それを実行するための必要な要素を本人が検討し、「実行シート」にまとめる機会を設ける。

※項目については内容により一部変更

〈希望シート〉

希望シート

やりたいこと

もくてき

どうすすめるか（じゅんぱん）・いつまでにするか

よういするもの

〈実行シート〉

ミッション じっこうシート

やること

もくてき

どうすすめるか（じゅんぱん）・いつまでにするか

よういするもの

・当初は手書きで記入していたが、時間がかかること、文字が大きくスペースの制約を受けることを考慮し、iPad を使い記入した。

・空白が目立つこともあり、記入後は会話をしながら確認をした。未記入の部分や本人からわからないと申し出た場合でも順番に整理することで答えることができた。

・アプリは「goodnote」を使い、フリック入力で入力をした。

〈結果〉

記入例

○希望シート

・やりたいこと

はちまき (生徒会役員選挙に立候補したため、選挙活動のためのはちまきを作成したい。)

・目的

ふくかいちょう

・用意するもの

はちまきのなまえおかく (「はちまきになまえをかく」と思われる。)

・いつする

未記入

記入後の生徒との会話

教師：目的は副会長っていうのは？

生徒：当選したい。

教師：何に使うの。

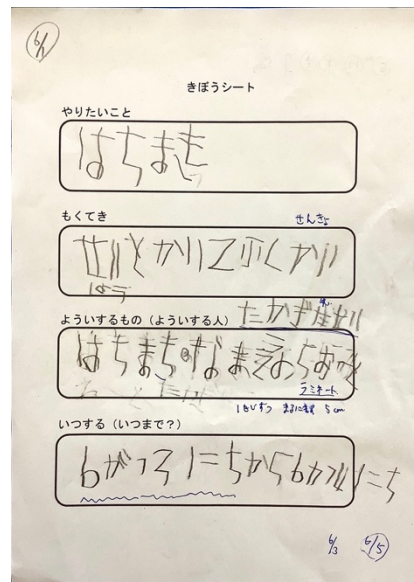
生徒：選挙活動。

教師：何でつくるの。

生徒：画用紙とか。

教師：それは用意するものの一つだね。

→いつまでするのか教師と選挙の日程を確認した上で記入した。



○希望シート

・やりたいこと

M先生 (昨年度の担当教員、今年度人事異動により他校に転勤) に報告

・目的

せんきょ (生徒会役員選挙に当選したことを伝えたかった。)

・どう進めるか

未記入

・用意するもの

未記入

記入後の生徒との会話

教師：どうやって報告するの？

生徒：電話

教師：どうやって電話をかけようか？

生徒：・・・

教師：M先生にどうやったらかけられるかな？

生徒：・・・・

実際には教師側がM先生に確認後、教師の電話を貸し、昼休みを利用し電話で報告した。

記入例

○ミッション実行シート

・やること

じっしゅうノート (校内実習のため、実習担当の教員に内容を聞いたり保護者に目標を相談したりすることを想定していた。)

・その他の項目

未記入

記入後の生徒との会話

他の項目について書くように指示を出すと

生徒：わからん

教師：何が？

生徒：・・・・

教師：どうして実習ノートって作るの？

※中略

生徒：することを知らず？

教師：実習のことを知ること目的の一つだよ。作業内容を知るためにはどうする。

生徒：聞く？

教師：誰に聞いたら一番わかるかな？

生徒：S先生

教師：目標も家の人と相談してきたらいいよって前にいったと思うけど、誰に相談する？

生徒：ママかな、、

教師：じゃあ帰ったらお母さんに相談してみる？

・希望シートについてはやりたいことを表明した際に随時希望シートを渡し、本人なりにまとめるよう促した。作成の数は少なかったが、思いついたことに対してどのような目的か、どのように進めるのかといったことがなかなか書き進められない様子が伺えた。一方で「それってなんのためにするの。」や「じゃあ何が必要なの。」と会話をしながら探ると本人なりに回答が出ることがあった。

・ミッション実行シートについてはやることについては教員からの指定だが、具体的な進め方などについては記述で迷う様子が見られる一方で、会話形式で聞くと何らかの回答をすることもあった。

●iPad を操作する様子



〈考察〉

①要因

- ・答えた回答についてさらに具体的なことを聞くと言葉に詰まる様子もあることから、具体的に考えるのは難しい可能性がある。
- ・希望を実現するために用意するものや誰に聞くといったことを本人なりに考えているかもしれないがどこまで思考できているかははっきりとしない。
- ・指示されたことを実行に移そうとするにしても具体的にイメージができず、思考すること事態が困難なのか、考えは頭の中にあるものの、表現すること自体が困難なのかははっきりしない場面も見られた。
- ・一方で会話をしながら部分的にはヒントになるような事柄があると考えが進むこともあることから、それなりに考えているが文章にするとどのように表したら良いか分からず、つまづく可能性も考えられる。

②指導の仮設

- ・思考をする際の阻害要因として考えを記録することを求めていたが、時間がかかる上、本人の性格上丁寧にまとめようとする意識があり、結局肝心の「思考」が疎かになっていたのではないか。
 - ・記録の負担をなくすことで、よりスムーズに考えられる可能性がある。
- iPadを使って希望シートの項目を提示し、どのような項目を考える必要があるのかを確認し、教師との会話で必要な事柄を探っていく。記録は教師が行った。記録は写真にとっておき、いつでも見られるようにした。

③次の指導の概要

実態の検証を継続し、実行するためのどのポイントに得意不得意があるかを把握する。そうすることで、実行力が上がるための観点が見つかるのではないだろうか。

実践2 「思考整理能力」及び「活動遂行能力」を身に付ける。

〈方法〉

実践1のように記録用紙を区別せず、やりたいことややるべきことがあった場合に会話をしながら必要な要素を探る。記録は教師がする。

〈結果〉(抜粋)

①

生徒：自分の誕生日会去年もしたなあ。今年もなんかできんかなあ

教師：誕生日会？したい日はある？

生徒：10月29日。このクラスでしたい。呼べたら（学校）看護師さんも呼びたい。

教師：誕生日会でどんな事をしたい？

生徒：ろうそくとか、、、少しうるさいかな、、、あとみんなで飲み物を飲みたいな

教師：何を飲みたいの？

生徒：カルピス

教師：それ誰が用意するの

生徒：できれば先生が、、、

②

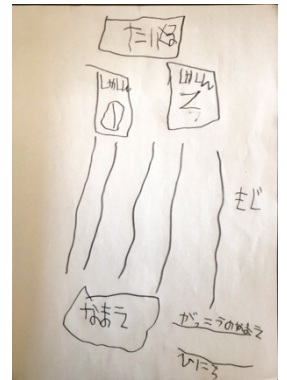
生徒：ハロウィンパーティがしたい

教師：ハロウィンパーティー？いつのこと？

生徒：29日は誕生日会をする予定だし、ハロウィンは31日だけど今年は土曜日。30日にしようか。

教師：ハロウィンなら誰かのところに行くのかな？誰のところに行きたいの？

生徒：部主事先生と校長先生のところ



③

他にも実習のお礼状を書く際にはいつまでにするか、いつするか、どのように書くかを考え紙に下書きを書くこともできた。さらに今までの経験から文字を打つ方法をパソコン、手書き、iPadの三種類思いつき、その中からバランスを自分で調整できるという理由で手書きを選ぶことができた。

〈考察〉

・口頭で確認していくことで、思考を整理し、活動を遂行するための必要なことを自分で筆記するよりもスムーズに挙げることができていた。

→生徒なりに必要な要素を考えられているようである。

・問題解決の方策が教師の問いかけに答えるスタイルであり、卒業後の生活の中で生かすためにそれらを自ら考え、行動することが大切ではないか。

・「思考整理能力」及び「活動遂行能力」を生活のなかで発揮するためには自発性が必要で、それを発揮するためのポイントを整理、確認する必要があるのではないだろうか。

→考えるべき項目を自分で確認できる工夫が必要ではないだろうか。

実践3

〈方法〉

身に付けた能力を活用するためのポイントを確認する。

実践を通してどのようなポイントが必要かを確認した。

いつするのか

何が必要か。

誰がするのか、用意するのか。

→これらを自発的に確認したり準備しようとしたりする必要がある。

→わからないこと、できないことは身近な人にお願いしたり確認したりすればよい。

→行動を始めるスピードも大切

・日常生活で随時上記のポイントを確認し、やりたい事を言ったがどう進めようかと悩んでいる様子の時は、希望シートの項目に沿って要素を考えて活動できるようにした。

〈結果〉

・作業学習の際、作業内容に応じて教室から準備をして持って行くものが異なる。生徒は複数ある作業内容から自分で選ぶスタイルで行っているため、作業学習に行く前に、今日はラミネートはがしをするから滑り止めを（電動車椅子の後ろにかけている）カバンに入れておいてと教師に伝える場面が何度も見られた。

→必要なものを考えて行動できている

・教室の時計が止まっていた際、「止まっているよ。」と伝えてきたが、「これだと困るな。どうしよう。」と教師が言ったら、「時計を動かす。」と言ったので、シートを確認した。どのようにすれば良いかは分からなかったが、事務の方に聞けば良いのではないかと考え、具体的な解決方法は事務の人と考えると行って時計を壁から外すことを依頼してきた。分からないことも誰に聞けば良いかを考えて、必要なことは（この場合時計を壁

から外す。)身近な人に依頼するといったように本人なりに多角的な方法を用いて問題解決に取り組むこともできていた。

→事務の方が電池を取り替えてくださり、教室に戻って来ると「電池が切れていたみたい。時計って電池で動いていたんだ。」と報告することもできた。

〈考察〉

・教師が生徒と会話をしながら考えを引き出していたが、生徒が自ら確認する活動を通してより自発性を引き出したのではないだろうか。

→自発的な考えが見られたり、行動できたりしたのは生徒自身がどのように考えるのかについての項目の確認が有効であったと考える。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

・何かしたい。何かをしないといけないという状況の中で、必要な要素を考え、自分なりに動くことができるようになってきた。

・周囲に確認することもあるが、まず動いてみて何がわからないのかを把握し、それを解決しようとする態度が見られるようになってきた。

○エビデンス

・クリスマスプレゼントを後輩にあげたい

お祭りイベントで1年生の後輩が出店を実施し、参加した際に景品をもらった。そのお礼を兼ねて、クリスマスプレゼントを渡したいと考えた。プレゼント自体は実習で制作したアイロンビーズのクリスマスバージョンを教師と一緒に作った。いつ持っていか。どのように渡すかを1年生の担任の先生と話し合い、決めることができた。→決めた日の昼休みに持って行くことになったが、給食にやや時間がかかるため、少し急いで食べ、余裕を持ってプレゼントを持って行くよう努めることができていた。

・実習に行っている友達が学校へ帰ってくるので、黒板にメッセージを書きたい。

昼休みに該当のクラスに行き、残留している同級生に相談。該当クラスの担任に相談し、許可を得て、イラストと言メッセージを書くことができた。その際一緒に書いた同級生にどのような事を書くか聞いて参考にする姿も見られた。

・母親に誕生日プレゼントを渡したい

女性の先生に何がふさわしいかを聞き、卒業も近いし、感謝の手紙やビデオメッセージを提案された。そのことを母親が仕事中に祖母に相談し、便箋を用意してもらうよう依頼した。

→必要なものの用意だけでなく、母親に当日まで知られないようにするといった配慮もできていた。

封筒は学校の作業班で作成しているものにシールを貼り装飾をした。それを普通に持って帰ると母親が見てしまう事を想定し、家庭で祖母と相談し、放課後祖母が学校に寄り、担任と直接会って渡すことにした。また、担任に学校の送迎の際に間違えて学校の様子としてこの活動を母親に伝えないようにと釘を刺した。

例年母親の誕生日の際はその後で家族の都合のつく日にみんなで食事会を行うので、そこで渡そうと計画した。手紙を封筒に入れたり渡すタイミングで用意したりする協力は、祖母に依頼したとのこと。

○その他エピソード

・昼休みに他の教室に行く際、以前は「遊びに行ってくる」と言って出かけることがあったが、「(駅伝大会に出場する同じ学年の友達に) 駅伝大会がんばってねって言うてる。」「卒業生送別会の発表のダンスのこと聞



いてくる。」と具体的に何をするか目的をもって行くことも見られるようになった。

・同じクラスの友達が遅刻することがわかった際には、担任に対し、授業を担当してくれる〇〇先生に伝えた方がいいのでは？」と言ったように他者が必要と思われる行動を伝えてくる場面もあった。

○全体考察・まとめ

・生活の中で希望や願いを実現したり依頼されたことを遂行したりできることは生活の充実感や自己肯定感のためにとっても重要ではないかと考える。一方で必要な物品の用意をお願いするなどの支援も受けながら、解決していくことも生徒の中では選択肢になっているのではないだろうか。思考を整理し記録としてまとめることは難しいこともあるが、iPadを使って考えを整理した経験からその必要性を感じており、生徒なりに考え行動に移すことができているようである。

・思考をまとめたり、筆記をしたりする際に今回の実戦では iPad は主要な道具とはならなかったが、使用経験があったこともあり、生徒自身の中で選択肢の一つとなっていたようである。その中から自分で理由を考えて手段を選ぶことができたことも生徒自身が考え自ら選択できた一例ではないか。